

## Dxchange の新機能

JARL D-STAR 委員会

V00.02 2016.06.29

これまで、レピータに無線機からアクセスされた情報のみ転送の対象にしていますが、ゲートを超えてアクセスされた情報とゲートを超えて他のレピータにアクセスした情報も転送の対象にしました。

これらの機能を有効にするには

```
INET_DPRS_IN= 1
```

```
INET_DPRS_OUT=1
```

です。INET\_DPRS\_IN は、ゲートを超えてアクセスされた情報、INET\_DPRS\_OUT は、ゲートを超えて他のレピータにアクセスした情報です。1 を指定すると、転送の対象とします。また0 を指定すると対象とはしません。初期値は

```
INET_DPRS_IN=1
```

```
INET_DPRS_OUT=0
```

です。INET\_DPRS\_IN=1 を指定した場合は、転送されてきた情報から、送信元の情報を復元するため、管理サーバーにアクセスする必要があります。初期値で指定されていますので、通常は指定する必要はないのですが、指定する場合は、下記のように指定します。

```
TRUST_SERVER=133.130.72.162:30001
```

この機能を使用すればアシスト回線の先のレピータも転送することができます。

この場合は、

dxchange.conf の MODULE でアシスト回線の先のレピータのコールサインを指定します。CALLSIGN と異なったコールサインの場合もあります・

```
CALLSIGN=XX0XXX
```

```
MODULE_NAME=XX0XXX A,XX0XXX B、ZZ0ZZ A
```

更に、アシスト先のレピータのビーコンを転送する場合は

```
BEACON=コールサイン:緯度:経度:送信間隔:コメント
```

で指定します。なお、ゲート側のビーコンを転送しない場合は、

```
BEACON_INTERVAL=0
```

のように0を指定します。

### その他

1 入力だけですがシリアルポートからの入力もサポートしています。レピータの設置場所で、他の周波数で受信した DV モードの簡易データから D-PRS 信号を取り出して転送する機能もサポートしています。

DV モードが受信できる無線機から簡易データの出力を取り出し、dxchange が動いている PC のシリアルポート (USB 経由でも可) に接続します。更に、dxchange.conf に下記コマンドを追加します。

```
SERIAL_PORT=/dev/ttyS0:9600
```

/dev/ttyS0 は、接続したポートの名称です。その後ろに : で区切ってスピードを瀬記述します。